

NEWS 1 「冷媒用断熱材被覆銅管 JCDA 0009」を改正

日本銅センターでは、2021年3月に冷媒用被覆銅管委員会において「JCDA0009冷媒用断熱材被覆銅管」の改正を行った。

銅管の外面に高発泡ポリエチレンおよびポリエチレンによって被覆した断熱材被覆銅管は、冷媒配管に広く使用されていたが、当該製品の規格がなかったため、2012年にJCDA0009として制定された。なお、公共建築工事標準仕様書（機械設備工事編）の冷媒管および継手には断熱材被覆銅管の記載はあったが、対応する規格がなかったため、平成25年版より当該規格が掲載されている。

今回改正の主なポイントは

- 原管寸法の許容差を限定
 - 断熱材の厚さを限定
 - 断熱材の種類を限定
- などである。



NEWS 2 「第7回高機能金属展」に出展

日本銅センターでは、2020年12月2日～4日に幕張メッセ（千葉市）で開催された「第7回高機能金属展」に日本伸銅協会と共同出展した。

今回の展示では同年10月に開催された関西展のコンセプトを踏襲し「接触感染予防策に貢献する身近な安全素材 超抗菌「銅」と銘打って、幅広いPRを実施した。

「CU STARマーク」を中心にしたパネル展示に加え、大阪大学と群馬大学の協力による研究パネルを展示。10社を超える協賛企業からはたくさんの超抗菌銅製品サンプルが提供され、展示テーブルには製品があふれるほどであった。



TOPICS 1 情報番組「とくダネ!」で銅の超抗菌特性を特集!

2月2日、フジテレビ系朝の情報番組「とくダネ!」の1コーナーで銅の超抗菌特性を特集紹介した。

同番組は、くらしにかかわる情報をさまざまな切り口で紹介し人気を集めている。この日は直近の新型コロナウイルス関連情報の総まとめとして『「銅」の抗菌作用で「新対策グッズ」と題し、銅の超抗菌特性をさまざまな角度から紹介した。

米国立衛生研究所が発表した「新型コロナウイルスは、プラスチックに付着した場合、約72時間感染力を保持、ステンレスだと48時間、これが銅だと4時間に短縮される」との研究結果を紹介。

さらに本誌前号でも紹介した群馬大学・板橋英之教授の開発した銅繊維マスクや各種超抗菌製品が次々と取り上げられ、スタジオ内には感嘆の声が上がりつづけた。



編集後記

新型コロナウイルス感染症が拡大してから1年以上経過しましたが、いまだに収束の兆しは見えません。コロナ禍の影響から銅の抗菌効果が再確認されCU STAR認証制度に関心を持っていただく機会となりました。今号も超抗菌銅の記事を中心に構成しましたが、一般的な

銅の用途をご紹介出来る平穏な状況に戻ることを祈りつつ、次号から編集デスクが変わります。6年間で合計13号の編集に携わらせていただきありがとうございました。
編集デスク 森川 純一(日本銅センター)

情報発信委員会

(委員長)磯部剛(古河電気工業(株))
(委員) 鉦山/高梨友宏(三菱マテリアル(株))、
菱田謙一郎(パンパシフィック・カッパー(株))、
吉本俊(日本鋳業協会)
伸銅/畚野章((株)神戸製鋼所)、
多々羅徳昭((一社)日本伸銅協会)
電線/地引繁((株)フジクラ)、
前田かおり((一社)日本電線工業会)
((一社)日本銅センター)和田正彦、小澤隆